

平塚市市民活動推進委員会

平成26年度 第1回 議事録

日 時 平成26年4月16日(水)午後2時から午後4時まで
場 所 ひらつか市民活動センター
出席者 小中山委員長、谷委員、篠原委員、田平委員、坂田委員、市川委員、細野委員、
事務局
傍聴者 1名

1 平成25年度センター利用者数、事業実施、相談内容報告

平成25年度のセンターの利用状況として、平成24年度に比べ、利用者数、利用団体数は下がったが、利用率が上がっている等の説明を行った。また、主なセンター事業の実施報告と共に、ボランティア相談の内容報告として相談内容の傾向、課題への解決策などの説明を行った。

〔委員からの意見・質問等〕

委 員 今の高校入試では、ボランティアが内申に反映されず、そのため地域でもボランティアをする中学生も少なくなっている。そのような中で、ユースボランティアを開催する目的はどのようなものがあるか。また、企業へ向けてはどのような取り組みをやっているのか。

事務局 いままでのユースボランティアは中高生をターゲットとしてきたが、中高生はボランティアをしても、なかなか団体の会員になるなど次につながっていかない。今後はユースボランティアのターゲットを大学生にして行こうと考えている。平塚には大学が2つあるので、その学生を支援する部署にも話しを持っていきたいと考えている。企業へは、ボランティア情報誌「たすけっと」を置いてもらうように働きかけるなど、センターや市民活動を知ってもらうことから始めている。

委 員 大学生には、ボランティアセンターがあったり、カリキュラムがあったりするが、それ以外でボランティアをやろうとする学生は目的意識を強く持っている人が多いので、ユースボランティアへの参加はなかなか難しいと思う。インターンシップなどで学生を団体に派遣できるようなことができればよいのではないかと思う。企業と団体とのコラボレーションも県内では進んでいるようなので、平塚市でも進んでいけるとよいと思う。

委 員 大学生は将来の平塚市を担っていく人材だと思うが、漠然とボランティアがしたくてセンターに来る人は少ないと思う。センターも待っているだけではなく、事業や活動のテーマを決めて、大学に投げかけてみてはどうか。

事務局 平塚市と大学の事業という意味では、すでにさまざまな事業が行われている。ボランティアという部分では、就活などで、企業からボランティア活動や社会貢献活動などを聞かれる場面もあるという。そうしたことから就職課などと連携していきたいと考えている。

委員 学生が行ったことの成果を市民に知らせる、ということも行ってほしい。

2 ひらつか市民活動ファンドの平成 26 年度審査結果

ひらつか市民活動ファンドの平成 26 年度助成の審査会結果報告を行った。

〔委員からの意見・質問等〕

特に無し

3 ひらつか市民活動ファンドへの平成 25 年度寄附状況

ひらつか市民活動ファンドの平成 25 年度中の寄附金の報告を行った。

〔委員からの意見・質問等〕

特に無し

4 市民向け講座等共催事業の選考

各委員の「市民向け講座等共催事業企画提案書 審査表」を集計し、その合計点数を基に審議した。

- 審 議 -

〔委員からの意見・質問等〕

委員 タイトルに宗教と入っている講座がある。内容に問題はないのだが、市民に誤解を与えかねないので、共催事業としてどうなのかと思う。

事務局 確かに誤解される可能性があるのですが、採択する場合でも、推進委員会からタイトルを変更してもらうという条件を付すことはできる。

審議の結果以下の団体が採択となった。

団体名	事業名称	講師謝礼
平塚花のまちづくりの会	バラの花の景観づくり講座	30,000 円
平塚市介護の会「はまゆう」	ともに語りあう「人生最期に向けたところとからだの備え」	30,000 円
NPO 法人 市民後見の会かながわ	あなたの傍の市民後見人を知ろう（第 2 回）	30,000 円
ビーンズネット	ワークライフバランス～女性が生き生きと働ける社会をめざして～	30,000 円
平塚の在宅ケアを考える会	シンポジウム 医療者と宗教家が語る「いのち、そして死とどう向き合うか？」	30,000 円

5 平成 26 年度事業計画

平成 26 年度実施予定の講座や交流会などのセンター事業計画を説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

委員 共催事業として計画されているパワーポイント講座は団体が今後必要になってくるスキルなので、是非行っていただきたい。

委員 パワーポイント講座ではパソコンはセンターが用意するのか。持っていない団体もいると思うので、そこも考慮していただきたい。

事務局 提案してくる団体にもよるが、用意できる団体を優先的に採択したい。

委員長 パワーポイントの作り方でも、プレゼン用と資料用では全然作りが違ふ。そこも考慮して講座を行っていただきたい。

事務局 この講座はファンドの審査会でパワーポイントでのプレゼンが可能になったことにも起因している。今回は耳学問ではなく、実際に操作しながら講座をすることを想定している。

6 ひらつか市民活動センター今後の方向性

センターの今後のあり方について、県下各市のセンターと市町村担当課へ取ったアンケート結果を説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

委員 前提として公設なのか、民設もあるのか？

事務局 基本的にセンターは既にあるので公設となる。運営方法を公営のままなのか、民営あるいは公民協働運営にするのかといった議論になる。

委員 私はひらつかのセンターは費用が高すぎると思っている。そもそもこの場所でいいのかという問題もある。

事務局 ここでは、場所の問題と運営方法の問題は分けて考えたい。センターの場所については、市の他施設を含めて全体で考えなければならないので、当面この場所を継続して使用するという前提で、運営の在り方のご議論をいただきたい。

委員 民営でやっているセンターでうまくいっているところはどこか？それはどんなところがうまくいっているのか？いい運営をしているセンターを複数調べてベンチマーキング（目指すべき目標の設定）をして、取り入れるべきもの、平塚の独自性として残すべきものを考えていくような手法でやらないと何も決まっていけないのではないか。

事務局 調査シートの回答だけではなかなか見えてこない部分もあり、実際にいくつかのセンターに伺って様子を聞くことも必要だと考える。

今回の調査の中に、運営形態によるメリット、デメリットを聞いているが、これは委託側の行政と受託側の団体に聞いた結果であって、受益者である実際に利用している市民活動団体に聞いたものではない。聞けば、会議室を借りたり講座を受けたりするのに有料であるところよりは、無料のところの方がいいといった回答が返ってくるかもしれない。

また、団体の活動環境を考える場合、サポートセンターだけを比較してみるのではな

く、平塚の場合は、公民館が 25 あってそこでも団体は活動できたりするので、トータルで見る必要があると思う。

委員 ただ、サポートセンターは、場の提供だけではない、中間支援としての機能が必要だ。藤沢や茅ヶ崎では協働についても新たな施策が始まっている。そういった施策づくりにも市民活動が入ってきている。それらは中間支援組織が中心になっている。

委員 公営であれ、民営であれセンターが中間支援としての機能を果たすことが大事。自分の団体も、当時のセンタースタッフにコーディネートしてもらい、このセンターを活用して活動を発展させていった。

委員 中間支援のあり方については、どういう支援を必要としているのかなど、団体自身も考え、伝えていく必要がある。

委員 民営のセンターの多くが人材の課題として高齢化をあげている。若い世代の取り込みは必要だが、若いと言ってもどこまでの年齢をいうのか。現実的には人件費も確保できないので若い世代の雇用は難しい。シニア世代でも比較的若い世代に担ってもらうことが重要になるのでは。その方々の知識スキルを活かせればいいと思う。

事務局 これまでは公営だと人事異動などによりスキルや情報が蓄積されないことが課題だと捉えていたが、民営でも人件費の問題もあってスタッフが定着しないという課題はあるようだ。

委員長 このセンターも民営にすることを検討するのであれば、人材の確保については、若い世代の取り込みだけでなく、比較的若いシニアの活用も含めて検討し、人件費も必要な経費を見込むべきであるということはこの会の総意としたい。

委員長 県域や、全国的な中間支援のフォーラムなどはあるのか？

事務局 NPO セクターが主催でやっている場合が多いのでは。

委員 県はやっている。全国レベルだと NPO セクターになるが、当然行政を巻き込みながらやっている。

7 その他

今年度の提案型協働事業や協働事業事例集の作成について説明した。

閉会